



2021 年度
第 5 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
暴力の悪循環、慣行的な対策から抜け出そう、スポーツ界の学校暴力について



국제평화축구코리아
Football for Peace Korea

2
学校暴力加害選手、今後居場所はない



3
国会、スポーツ界の暴力対応に注文...

2 次被害減らさねば



4
鄭セギョン
「学校暴力履歴、
国家代表選抜に
反映させよ」



5
週間スポーツ
人権関連のニュース

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



01 コラム寄稿 文ノヒョン・スンミン 平和サッカー코리아運営委員、進行者
暴力の悪循環、慣行的な対策から抜け出そう、スポーツ界の学校暴力について



국제평화축구코리아 Football for Peace Korea

韓国サッカーの伝説となった朴チソン選手が10代の選手時代に先輩と指導者から受けた暴力がほとんど日常的だったと彼の父親である朴ソンジョン氏が自叙伝で明らかにした。韓国スポーツ界で起こる暴力の問題は長い間解決できないまま、別の被害者を生み出している。

以前と変わった点とすれば、多くの犠牲者がこれ以上沈黙せずに勇気を出して自分の被害経験を言い出したことだ。代表的にショートトラック国家代表シム・ソクヒ選手などを挙げることができる。2021年1月にバレーボール選手李ジェヨン、李ダヨン姉妹からの継続的な嫌がらせと暴行を受けた被害者がSNSを通じて事実が公開されるや、二人の選手はすぐに選手活動を中断した。続いてソン・ミョングンなど、他の選手たちの事例まで公開されてバレーボール界はもちろん、スポーツ界全般に関心が拡大しているが、肝心の所属チームと協会などの団体はどのように解決すべきか分からないようだ。

この間、私たちの社会に蔓延した成績至上主義は指導者と選手の両方に、過程より結果に集中させた。過ちはすぐに忘れ去られるものという認識は、指導者と選手たちにとって手段と方法を選ばず最高でなければならぬという認識を持つようにさせた。資本と競争中心の文化がスポーツ精神にまで影響を及ぼしているのだ。

一部に学校暴力とスポーツ暴力を区別して見なければならないという意見がある。韓国の状況に照らして見たとき、スポーツは特別に選抜された一部の選手が多く時間を一緒に過ごす中で起こる場合が多いのでスポーツ界の問題ともいえるが、学校暴力もすでに社会的問題になってから久しく、何人かの芸能人も非難に上がった状況なので区分自体が何の意味があるのかと思う。問題はこのようなことが起こるたびに「全数調査の方針」、「予防教育の強化」のような慣行的な対策を打ち出すだけで、根本的なアプローチがなされないという点である。

根本的な問題の原因と被害者の声やニーズを後回しにしたまま全ての関心が加害者のみに集まり、非難世論に後押しされて見せしめの処罰をして警戒心を与えるレベルで終わることが多く、被害回復を通じた問題解決と予防が期待できない状況が繰り返されている。このような方式で行われると学生と選手たちは「処罰」を受けないために非暴力を選択するか、暴力の形態が巧妙に発展する余地を与える。

今、認識が変わらなければならない。金メダルをとれる有望な選手だからと過去の誤った行動の免罪符を与えるのではなく、自らの責任で被害回復してこそ機会を与えるのが常識になる文化が、スポーツ界だけでなく私たちの社会に広がらなければならない。そして、これを改善するための教育プログラムの拡大

が日常的に必要である。予防教育の内容も間違っただけをしたら処罰という方式を超えて平和感受性と多様性の中で共存することを学ばなければならない。

小さな試みではあるが、これに国際平和サッカーから始まり韓国まで伝えられたスポーツ平和教育専門家チームとして、私たち民族助け合い運動の国際平和サッカーコアは国際的なプログラムを数年に渡って国内事情に合わせて調整して導入されたプログラムを運営している。プログラムの参加者がスポーツを媒介として誰も排除されず、尊重と公平、信頼と責任そして包容を学習するように助け、年齢と性別を考慮した開発を重ねている。学校だけでなく運動の指導者、市民に至るまで平和教育とスポーツを通じて、個人と共同体の平和感受性を高めることに貢献する教育が多くならなければならない。

資本とエリート中心の価値観は個人主義と不平等を深化させ人類の欲は飢餓と気候変動として表れた。あまりに遅かったかもしれないが地球市民として一緒に暮らすという共同の意識が回復されるべき時だ。身近なところでは私たちの社会に深く根付いている個人主義と競争主義によって共同体が毀損したスポーツ精神、さらに私たちの社会の共同体意識を回復しなければならないときである。

故崔スクヒョントライアスロン選手、故高ユミン等、暴力でこの世を去った選手たちの冥福を祈ります。

ヒョン・スンミン（平和サッカーコア運営委員、進行者）

出典：<http://ksm.or.kr/?charity-project=sosik&mod=document&pageid=1&uid=1628>



02 ノーカットニュース 2021.02.24

学校暴力加害選手、今後居場所はない

学校暴力加害選手は今後、居場所がない。現在一元化されていない加害者処罰基準も用意される。

文化体育観光部と教育部は24日、ソウル鍾路区政府総合庁舎別館で記者会見を開き、「学校運動部の暴力根絶とスポーツ人権保護システムの改善案」を発表した。

文体部と教育部は最近、プロバレーボールなどで学校暴力論議が相次いで浮上するや、第4次社会関係長官会議を開き、学校暴力根絶方案を議論した。

この日公開された「学校運動部の暴力根絶とスポーツ人権保護システムの改善案」の核心は、被害者の回復と治癒サポートである。

教育部と文体部スポーツ倫理センターは、民間の学校暴力専門機関と連携して被害者の心理、法律などの相談を支援して治癒プログラムを運営する。スポーツ倫理センターは3~4月に集中申告期間を運営して同様の被害事例の申告受付を受け、オンラインモニタリングを通じて調査に乗り出す方針だ。

スポーツ倫理センターの調査と本人認定などを通じて事実関係が明らかになった場合、文体部と関連団体は協議体を構成して暴力行為のレベル及び被害者の容赦可否などを勘案し永久追放から出場停止、社会奉仕などの制裁のガイドラインを設けることにした。

2022年までに種目団体別に懲戒情報統合管理システムを構築し、関係機関との協議を通じて加害学生選手の学校暴力予防法に基づく措置を懲戒情報に含めて統合管理する案も用意する。そのため国民体育振興法などの関連法改正が推進される。

これにより、プロスポーツ球団、実業チーム、国家代表、大学等の選手を選抜する際に、学校暴力関連履歴を確認し選抜を制限することにした。

プロスポーツは新人選抜時に学校暴力履歴がないことを確認する誓約書を受け、虚偽で作成した場合、誓約書に基づいて制裁できるようにする方針だ。大学入学も体育特技者選考で学校暴力履歴を重要評価要素として反映する場合、補助金支援時の加点を与える予定だ。

退学処分を受けた選手は選手登録を封鎖して、3月1日以降、学校暴力予防に基づく処分を受けた後、一定期間種目別大会と総合大会に出場できないように制限する予定である。このため、今後の選手登録や大会出場申込時に学生部や学校暴力記録の校長確認書を提出するようにする。

学校暴力が明らかになった場合、具体的な根拠を持って制裁することができるようプロスポーツ団体、大韓体育会の会員種目団体などの制裁規定も整備する。

教育部は毎年「学生選手暴力の被害全数調査」を実施し、学校暴力審議機構を通じて加害者を措置し、スポーツ倫理センターでも学校現場に人権監視官を投入して抜き打ちチェックするなど、学校現場の暴力の実態を直接確認する計画だ。

被害者の2次被害を防ぐための方策も用意される。被害者が既存の学校運動部で引き続きスポーツをするのは難しい状況に置かれても、市道種目団体所属などで大会に続けて出場できるようにし、合宿生活のために継続的な被害を受けている場合は、外部で宿泊・食事を解決できるようにスポーツ倫理センターで一時保護をサポートする。学生選手が簡単にスポーツ倫理センターに通報できるようにSNSを利用した申告システムも構築する予定である。

試合実績と指導者評価方法を合理化し、学習・運動両立の条件づくりと科学的なトレーニング方法支援拡散を通じた暴力予防も推進される。

最初に体育特技者の業績評価システムを改善する。団体競技の個人評価が可能なように評価指標を開発し、高校入学体育特技者は試合の実績外の評価要素の比重を高める。体育指導者の採用・評価の際にも、人権侵害懲戒があるかどうか、学習権保護努力など実績外の要素が幅広く反映されるよう合理的評価システムを構築する。運動と学習を並行できるよう幼・青少年週末リーグを拡大して平日開催の種目別大会の週末転換も持続的に推進する。

学校暴力が起こる場所として指摘されている学校運動部の寮も改善する。中学校の寄宿舎削減を誘導し、中高校の寮を年1回以上現場点検し人権侵害の要因を改善する。また学生選手、運動部の指導者が学期ごとに1回、1時間以上義務的に人権教育を受講するようにし、プロ球団も傘下のユースチームを対象に年1回、学校暴力予防教育をするようにした。体育指導者も2年ごとに人権教育を義務的に受けることになる。

これを履行しない場合、制裁の基準を用意するために、6月9日から国民体育振興法と施行規則改正案を施行することにした。

科学的トレーニング方法で競技力を向上させる支援策も用意する。全国11の市・道にある地域スポーツ科学支援センターを通じ、国家代表のスポーツ科学支援プログラムを学校運動部まで拡散できるようにして、科学的な訓練方法の導入を代表指導者評価要素に追加する。仮想・拡張現実を活用した訓練内容も学校で活用できるように普及することにした。

ファン・ヒ文体部長官は「これまで暴力を犯し選手として成功した後、誰もが問題を提起しなかった」とし「このような問題を解決し、加害者にふさわしい責任を果たしながらも、被害者が真の心の癒しを得られるよう原則と基準を収束する意味で今回の対策を立てた」と説明した。

続いて「今回の対策がうまく行われて現場で定着できるようにスポーツ界、教育界など関係する専門家と熱心に疎通しながら教育部と履行状況を常にチェックする」と付け加えた。

出典：<https://www.nocutnews.co.kr/news/5505842>

03 ニュース 1 2021.02.24

国会、スポーツ界の暴力対応に注文... 「2次被害減らさねば」

国会の文化体育観光委員会委員は24日、ファン・ヒ文化体育観光部長官にスポーツ界の学校暴力および選手への暴力に関する対策を注文した。

最近プロバレーボール・野球界で相次いで選手の過去の学校暴力疑惑が暴露され、高校アイスホッケー監督が学生をホッケーのスティックで暴行した事件が明らかになり社会的に波紋が広がったことで出てきたものだ。

ジョン・ヨンギ議員はこの日午前、国会で開かれた文化体育観光委員会の全体会議でファン長官に「現在進行形であるアイスホッケーの暴力から防いでこそ2次被害を減らすことができる」と述べた。

ジョン議員は「加害者が被害保護者と生徒に会って懐柔を試みて請願書を作成するようにさせたという報道もあった」とし「被害者がかえって身動きできない事態を回避するには、加害者と被害者を完全に分離しなければならない」と指摘した。

ジョン議員はまた「大韓体育会から暴力の加害者に適用されるワンストライクアウト制を正しく動作させなければならない」とし「関連協会や体育会と（協力して）積極的な動きをお願いする」と頼んだ。

朴ジョン議員も「教育部長官と（スポーツ界学校暴力）関連議論してお互いに押し付けずに詳細な対策が出てくるようにして、この問題のための基準を正しく作成しなければならない」と注文した。

朴議員は「大韓体育会が（学校暴力加害）選手について生涯スポーツ界への進入を防ぐのは過酷な部分があるとし、反省して帰化し社会的に再度戻って来られる仕組みが必要であると回答した」とし「繰り返される暴力事態について大韓体育会が消極的態度でほう助しているのではないかと憂慮した。

これにファン長官は「一層の対策発表を検討している」とし「スポーツ界にも意見を伝えて政府と共に合意点を探そうとしたし対策を用意する過程にある。今週中にかんりの意見が出てくるだろう」と答えた。

この日の午後、文体部と教育部は「第4回社会関係長官会議」を通じて「学校運動部の暴力根絶とスポーツ人権保護システムの改善案」を審議、議決した。選手選抜の際、学校暴力関連履歴を確認し選抜を制限し、学校現場に人権監視官を投入して抜き打ちチェックするなど、実態を直接確認するなどの内容が盛り込まれた。

さらに、議員らはまた、ファン長官に△コロナ19の4次災害支援金と関連して、経済的打撃が大きい文化芸術体育観光業界の死角を最小限に抑えることと△キムチ、韓服など、韓国文化についての中国の「文化工程」への積極的対応も強調した。

（訳注：文化工程とは別物かも知れないが、中国の「東北工程」は高句麗と百済の歴史に関わる中国の研究プロジェクトで、歴史認識をめぐる韓国との間で軋轢の元となってきた経緯がある。）

出典：<https://www.newsl.kr/articles/?4222151>

04 ハンギョレ 2021.02.23

鄭セギョン「学校暴力履歴、国家代表選抜に反映させよ」

最近スポーツスター、芸能人などに向けた「学too」（学校暴力私も受けた）が続く中、鄭セギョン国務総理が学校暴力履歴を国家代表選手選抜に反映するように指示した。

鄭総理は23日、政府世宗庁舎で国務会議を主宰し、「学校暴力の履歴を代表選手選抜と大会出場資格基準に反映するなど、根本的な変化を誘導することができる特段の対策を積極的に検討してほしい」と文化観光体育部、文部科学省などの関係省庁に指示した。

鄭総理は、「最近、有名スポーツ選手たちの学校暴力前歴が続々と知られ、国民に衝撃を与えている」とし「成績至上主義と硬直した上下秩序、閉鎖的な訓練環境など、暴力が助長されたり隠しやすい構造的な問題点の改善が急がれる」と強調した。それとともに「成績向上のために時には暴力が必要だ、という誤った信念も今消さなければならない」とし「暴力はいかなる理由でも容認されないという通念がスポーツ界にも定着しなければならない」と述べた。

最近プロバレーボール選手の李ジェヨン、李ダヨン姉妹が中学校時代に仲間の選手たちを苦しめたという暴露が事実として明らかになり、プロバレーボール男子の三星火災のセンター朴サンハは最近、学校の暴力の事実を認めて引退した。

出典：<http://www.hani.co.kr/arti/politics/assembly/984169.html>

週間スポーツ人権関連のニュース

【ヨイドフォーラム】学校暴力を防ぐことができないのか

<http://news.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0924179937&code=11171316&cp=nv>

学校暴力報道が学校暴力に似ている

http://www.ohmynews.com/NWS_Web/View/at_pg.aspx?CNTN_CD=A0002720465&CMPT_CD = P0010&utm_source = naver&utm_medium = newsearch&utm_campaign = naver_news

魂を抹殺する「学校暴力」... しっかりとした処罰できない社会

<http://www.segye.com/newsView/20210219504025?OutUrl=naver>

[インタビュー] 「スポーツ学校暴力ミートゥー、選手以外のシステムに焦点を」

https://newsis.com/view/?id=NISX20210223_0001348989&cID=13101&pID=13100

李ギフン体育会長「メダルが暴力免罪符になることはできない」

https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1006214948&plink=ORI&cooper=NAVER

学校暴力選手、事実上のスポーツ界退出... これから国家代表・プロ球団選抜制限

<http://www.ifm.kr/news/302156>

文体部 - 教育部、体育界の学校暴力の根を抜く！

<http://www.newspim.com/news/view/20210224001079>

「家に帰りたい」学生選手告白... いま韓国スポーツの断面 "

<http://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=5127160&ref=A>

「運動部学校暴力 50 年継承... 合宿文化取り除く暴力の鎖を絶つ」

<https://www.donga.com/news/article/all/20210224/105581213/1>

プロスポーツ席卷した「学校暴力」... 「成果主義で始まった暴力正当化」

<http://www.ntoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=77493>

体育特技・指導者評価の合理的改善... スポーツ人権改善のキーに

<http://www.newspim.com/news/view/20210224000688>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT_FORM&inquiryNo=2

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com